

## 1 はじめに

本校は児童数 30 名にも満たない小規模校であり、児童は多くの人前で発表する機会が少なく、そのような場に慣れていない。そのため、集団における発表や話し合い活動でものおじしたり緊張したりして、自分の意見を伝えることが苦手である。そこで、本校では次のように発表の場を工夫し、表現力の育成に努めている。

## 2 事例

### (1) 全校話し合い活動

ア 時間：毎月末の学級の時間に実施（全校一緒の学級活動）

イ 参加者：全校児童

ウ 進行：企画委員（6年生） ※教員がサポート

エ 議題

- 毎月の生活目標の達成状況の確認・反省
- 生活目標の守り方の決定
- 委員会への要望、委員会からの連絡・お願い

オ 業間の時間の利用（事前に学級で児童自身の考えを整理）

数年前までは4年生以上で行っていたが、児童数の減少に伴い、できるだけたくさんの人の中での発表機会を設けることをねらいとして、全校で実施している。学年差はあるものの、直接自分に関わることであるため、低学年も自分の意見を真剣に伝えようとする。また、6年生が司会等の運営を行うが、下級生は自分がいざしなければならぬことを承知している。そのため、高学年に近付くにつれて司会の進め方を強く意識し始め、6年生になる頃には会の進め方を理解し、司会を務めることができるようになっていく。



全校話し合い活動

### (2) 100マス作文の実施

ア 時間：毎週の1回 業間の時間

イ 参加者：各学級（全校）

ウ 方法

- 100字以内でたくさん書く量
- 話題は基本的に自由
- 書くことに喜びを見いだすような指導



大きな集団の前での発表

学校生活に限らず、日々の生活の中で人前で発表しなければならない場合がある。そのような場では、伝えたいことを素早く選び、まとめなければならない。100マス作文の実施に当たっては、早く話題を決めてたくさん書くことに集中させるため、大きな間違い以外は指摘しない。また、国語科の授業における初発の感想や登場人物の心情等をまとめる場面でも活用している。日頃は自分の考えを発表しない児童が、この作文をだれよりもたくさん書くこともあり、その効果に期待している。

### (3) 交流学习

全校児童が集まっても30名に満たないため、大きな集団での発表の場を設けることは難しい。幸いにも、毎年1回、近隣の中規模校の交流学习に参加させていただいている。これを大きな集団の前で発表する機会の一つと捉え、本校児童が発表する場を設けることをお願いしている。

## 3 おわりに

数年間、本校に勤務している教職員から、「最近、人前でも堂々と発表できる児童が増えてきた」と聞くことがあった。確かに私が本校に赴任した当初、発表時に手が不自然に動いたり体が揺れたりする児童がいたが、最近はそんな様子が見られなくなった。これは、一朝一夕の成果ではなく、今までの本校職員が数年間かけて発表の場の工夫に地道に取り組んできた結果だと思う。発表の場の工夫は、目立たない取組だが、続けることで着実に成果が上がることを信じて、今後も継続していきたい。